2018年4月21～23日 第8回EAFES（東アジア生態学会連合）国際会議を開催

2018年4月21～23日に、名古屋大学で第8回EAFES（東アジア生態学会連合）国際会議（The 8th EAFES International Congress）を開催しました。EAFESは、東アジアにおける自然環境に関する学術を発展させるともに同学の士の親睦を深めることを目的とした、韓国・中国・日本の生態学研究者による国際会議です。韓国生態学会、中国生態学会、そして日本生態学会が主体的に関わって運営を行っており、2年毎に韓国・中国・日本の持ち回りで開催されます。今回の名古屋大会は8回目の開催で、本学の生命農学研究科と環境学研究科も共催として会議を支援しました。

今回の会議は、中心テーマが「変わりゆく世界における東アジア生態学の役割」でした。地球規模の気候変動や社会経済の変化が進む中で、調和的かつ持続可能な開発に生態学からどのような貢献ができるかーまさに環境学のエコロジーと生態学のエコロジーの意味を正面から問うテーマです。

21と22日の大会発表両日には日本を含め10カ国の国々から286名の参加があり、そのうちの129名が海外から参加した研究者でした。元名古屋大学地球水循環研究センター教授の安成哲三氏ら日中韓3名による基調講演のほか、18のシンポジウムでのべ120名が口頭発表を行いました。環境総合館で行われたポスター発表では、約130件の研究者が研究発表を行いました。発表のキーワードは、地球温暖化、環境汚染、生物多様性、物質循環、生態系、外来生物などで、環境学ならではのものが多数出揃い、気象学、陸水学、土壌学、保全環境学など幅広い分野の研究者が活発に議論を繰り広げました。

（地球環境科学専攻准教授・西田佐知子）